



# 12月 保育の広場

令和6年12月2日

那珂こども園

保育園や幼稚園など集団の中で生活をしていると、子ども同士のケンカやトラブルはつきものです。特に幼児期の子ども達は相手の立場に立って物事を考えることが難しいため、お互いの考えや要求がぶつかった際に譲り合うことができず、ケンカになることが多々あります。そんな時、大人がすぐに仲介に入り、「ごめんなさい」や「ダメでしょ」と言って解決することがありませんか？実は子どものケンカは遊びの一つでもあるのです。

## 事例1

お昼寝起きは、ストーブの前でぼーっとしていたいはるかちゃんとまみちゃん。ストーブの前は狭いので互いの膝がぶつかったところからケンカがスタート！

ハルカ「いつもこうなんだからー」(怒り出し、まみちゃんを蹴る)

マミ「痛い！」(二人はにらみ合いはじめ…)

ハルカ「もう、うちのお父さんに怒ってもらうからね。うちのお父さん怖いよ！」

マミ「まみのお父さんも怖いもん!!」

ハルカ「うちのお父さんなんか、歯磨きの時テレビ見ちゃダメっていうよ」

マミ「まみのお父さん、暗いところに入れるからね」

ケンカをしていましたがおやつ時間がきてしまい、手を洗い席に座ったマミちゃん。それに気づいたハルカちゃんは「離れちゃおーっと」と遠くに座りました。…が、気が付くと、なぜか二人はしっかりと隣に座っていたのでした！



### 目のつけどころ！

言っていることは一人前(?)のつもり子ども達。

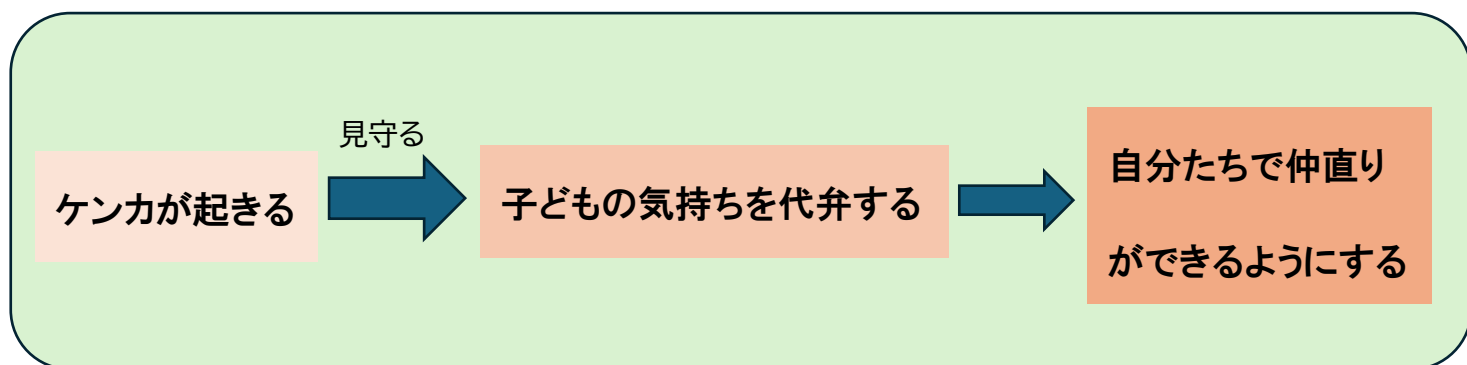
でもよく聞いていると笑えて仕方ありません。こんなケンカは遊びの一つ。邪魔をせず、見守りたいものです。

吹き出た感情を抑え込むのではなく、感情を出すことから、やがて自分で自分をコントロールする力がついていきます。

子ども同士のケンカは、心の発達や社会性を育むうえで重要な経験です。ケンカを通じて次のようなことを学ぶことができます。

- ・自分の意見を訴える
- ・友達の気持ちを考える
- ・自分の感情をコントロールする
- ・嫌なことから逃げず、解決する能力を身につける
- ・自分の気持ちとの折り合いのつけ方や共同作業をする楽しさを学ぶ
- ・相手にも気持ちや事情があることを知る





子ども同士のケンカでは、まずは「子どもの話を冷静に聞くこと」「大人が先回りして解決しようとせず、子ども自身が解決できるようにサポートすること」が大切です。

もしかしたら、お子さんからケンカしたことなどをご家庭で聞くことがあるかもしれません。心配される方もいらっしゃるかと思います。そんな時はケンカも生きるうえでの貴重な経験・学びと捉え、お子さんが前向きになるような言葉をかけてあげてください。

那珂こども園では、ケンカをすぐに止めるのではなく怪我に注意しながら見守るようにしています。子ども同士が納得のいくまで待ち、時には仲介に入りながら互いの気持ちを汲み取り子ども自身が気持ちを整理して解決できるようにしています。ケンカはお互いにとって成長につながる貴重な経験になるので、すぐに止めてしまうのはもったいないと考えます。これからも前向きに柔軟に見守っていきたいと思います。